



札幌市内の「ひきこもり」の当事者が推計で2万2692人に上り、過去最多となったことが、市が実施した2025年度の事態調査で分かった。前回の18年度調査より約3千人増加し、40歳未満が倍増した。小中学校での不登校をきっかけに、当事者となる人が増

札幌ひきこもり 最多2.2万人

25年度市推計 不登校契機か40歳未満倍増

えたとみられる。

対象は15～64歳で、年代別では15～39歳が1万2428人（前回調査比5824人増）と最多で全体の55%を占めた。40～59歳は6583人（同1545人減）、60～64歳は3681人（同1410人減）だった。

収入悩む当事者

当事者の悩みは、いずれの年代も「収入・生活資金」が最多だった。悩みについて「相談する人はいない」と答えたのは

15～39歳で46%に上り、年代別で最も高かった。実態調査は無作為に抽出した4千人を対象に25年11～12月に実施し、回答率は38%だった。

8050問題も

今回初めて80代の親とひきこもりの50代の子どもが孤立する「8050問題」の調査を実施した。同「一世帯に30～59歳の子どもがいる60～89歳の千人が対象で、回答した503人のうち75人（15%）が、ひきこもりの当事者がいると答え、60～80代

上」と答えた。同年代の59%が「相談しても解決できないと思う」とし、悩みを抱え込む状況が浮かぶ。

の親世代の4割が「相談したことがない」としている。

市の委託で当事者や家族の交流会「よりどころ」を運営するNPO法人の田中敦理事長は「若年層の当事者が増加している。年代が上がるほど長期化する傾向があり、早期の支援につなぐ仕組みが必要」と指摘する。市はひきこもり地域支援センター（市白石区）で来所、電話、メールでの相談を受け付けている。（木村みなみ）